

2.2.2 実証実験 岩手県:JA全農いわて(1/6)

■ (1) 実証実験の概要

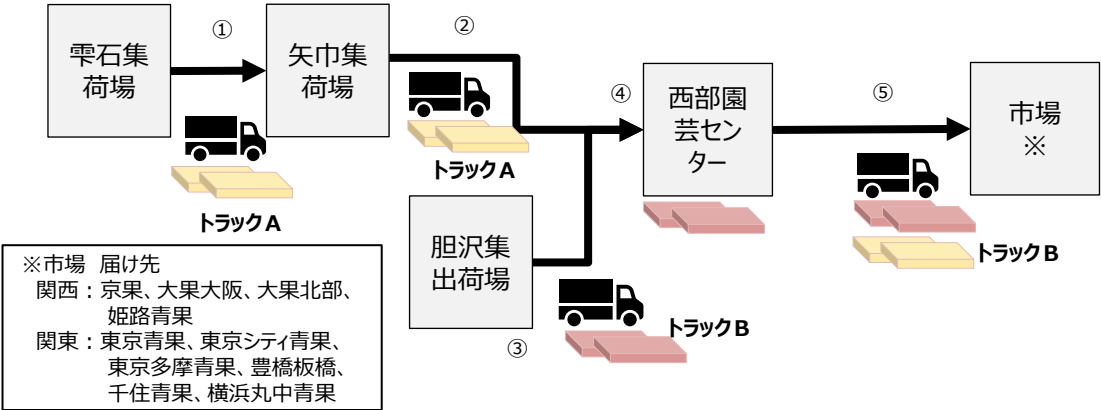
現状雑パレットで運用を実施している。今回は冬の閑散期に複数JAの複数品目を集約・混載して荷量を確保し、11パレットに積み付けての輸送試験を実施。

No	項目	内容
1	品目	菌茸類(しいたけ中心)、ホウレンソウ
2	経緯	冬の閑散期には、1集荷場では1～6パレットと積み荷がまとまらず、トラックの積載効率が低下しているが、各産地毎に個建て運賃により輸送を行っており、運送会社の負担が大きい
3	体制	全国農業協同組合連合会 岩手県本部、運送会社2社、4JA（JA新しいわて、JAいわて中央、JA岩手ふるさと、JAいわて平泉）
4	目的	品質劣化リスクの低い冬春期に限り、内陸エリア各集荷場の荷物を集荷及び消費地向けへ出荷する体制を検証
5	集荷日	輸送試験の期間（1月30日～2月28日）のうち週3回集荷
6	集荷場所	JA新しいわて、JAいわて中央、JA岩手ふるさと、JAいわて平泉
7	積載	1出荷場では1～6パレット
8	届け先	関西：京果、大果大阪、大果北部、姫路青果 関東：東京青果、東京シティ青果、東京多摩青果、豊橋板橋、千住青果、横浜丸中青果
9	販売日	関東は集荷日と同日、関西は集荷日の翌日
10	輸送手段	トラック
11	使用パレット	11型レンタルパレット

2.2.2 実証実験 岩手県:JA全農いわて(2/6)

■ (2) 輸送ルート

本輸送試験では、トラックの輸送試験を実施した。



No	項目	内容
①	雫石集荷場（積み込み）＋ 配送 トラックA	- 雫石集荷場で雑パレをトラックAへ積み込み - 矢巾集荷場へ配送
②	矢巾集荷場（積み込み）＋ 配送 トラックA	- 矢巾集荷場で雑パレトラックAへバラ積み - 西部園芸センターへ配送
③	胆沢集出荷場（積み込み） ＋配送 トラックB	- 胆沢集出荷場でパレットをトラックBへ積み込み - 西部園芸センターへ配送
④	西部園芸センター （積み荷の集約） トラックA、トラックB	- 西部園芸センターでパレットをトラックBへ積み込み - トラックAの積み荷を、トラックBへ積み替え
⑤	市場へ配送 トラックB	トラックBで市場まで配送

輸送ルート図



2.2.2 実証実験 岩手県:JA全農いわて(3/6)

■ (3) 段ボールと積み付けパターン

- 全品目雑パレットでの運用を実施している。
- 小ロットかつ、品目・段ボールサイズがバラバラであり集約・混載して荷量を確保しているため積み付け等は考慮していない。

2.2.2 実証実験 岩手県:JA全農いわて(4/6)

■ (4) 実証の風景

※荷量：1集荷場では1～6パレット

■ 雫石集荷場



■ 矢巾集荷場



■ 胆沢集出荷場



■ 西部園芸センター



■ 横持ち2台のトラック



■ 1台のトラックに集約



2.2.2 実証実験 岩手県:JA全農いわて(5/6)

■ (5) 作業時間等の変化

項目	現行	実証	結果
輸送トラック台数	京浜向け出荷車両 34台 (矢巾・雫石21台、胆沢・平泉13台)	合計：26台 ・集荷車両 13台 ・京浜向け出荷車両 13台	京浜向け出荷台数ベースで21台減。
トラックの積載率	1産地3パレット以下の積載で トラック輸送を実施	積載量：8.5パレット ・矢巾・雫石:4.8パレット ・胆沢・平泉:3.7パレット	2エリアのドッキングにより、大幅に積載率は改善。但し、未だに十分な積載は得られていない。
輸送運賃	積載した荷物の個建運賃しか支払っておらず、運送会社が運賃差損を吸収	チャーター料金を支払い	JAから徴収する個建運賃と運用会社からのチャーター料金の差額をJA全農いわて支払い。輸送費の約半額)

2.2.2 実証実験 岩手県:JA全農いわて(6/6)

■ (6) 総括

本実証の結果	- 品質劣化リスクの低い冬春期に限り、内陸エリア各集荷場の荷物を集荷及び消費地向けへ出荷する体制を検証することができた - 輸送コスト削減を確認できた - 積載率の向上を確認できた
課題	- 内陸集約輸送課題 法令遵守運航、積載効率、運賃コストのペイの3点を全てクリアすること - レンタルパレット利用課題 既に雑パレットでの輸送を行っており、1 1パレットへの切替はレンタル料の発生などコスト増となる。規格が統一されていることによる荷積みの効率化や衛生面でのメリットはあるが、十分なインセンティブにはなっていないこと。 ※業界内に流通する既存雑パレットは減少傾向も、未だ大部分は雑パレットで賄える状況
今後に向けて	本取組の継続、エリアの拡大等の推進

2.2.2 実証実験 福岡県:JA全農ふくれん（1/7）

■（１）実証実験の概要

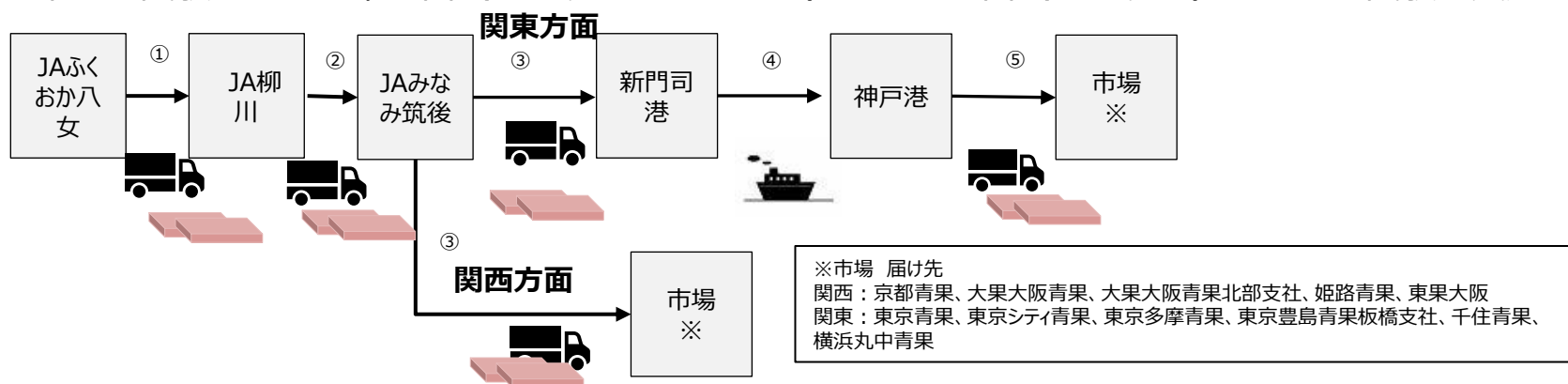
11パレットに合わせた段ボール（試作済）と既存段ボール混載でのＪＡ域を越えた共同輸送を実施。

No	項目	内容
1	品目	なす
2	経緯	2024年問題の運べないリスクに伴い筑後南部地域が抱える輸送問題を解決するため
3	体制	全国農業協同組合連合会 福岡県本部、全農物流（株）、運送会社２社、３JA（JAふくおか八女 JA柳川、JAみなみ筑後）
4	目的	筑後南部地域が抱える２０２４年問題の輸送課題を解決するため、ＪＡ域を越えた共同輸送を行い、地域内で効率的な輸送手段を構築すること
5	集荷日	関東：11月16日（水）、関西：11月16日（水）
6	集荷場所	JAふくおか八女 JA柳川、JAみなみ筑後
7	積載	関東6,048トン、関西5,728トン
8	届け先	関関西：京都青果、大果大阪青果、大果大阪青果北部支社、姫路青果、東果大阪 関東：東京青果、東京シティ青果、東京多摩青果、豊島板橋、千住青果、横浜丸中青果
9	販売日	関東：11月18日（金）、関西：11月17日（木）
10	輸送手段	トラック、フェリー
11	使用パレット	11型レンタルパレット

2.2.2 実証実験 福岡県:JA全農ふくれん (2/7)

■ (2) 輸送ルート

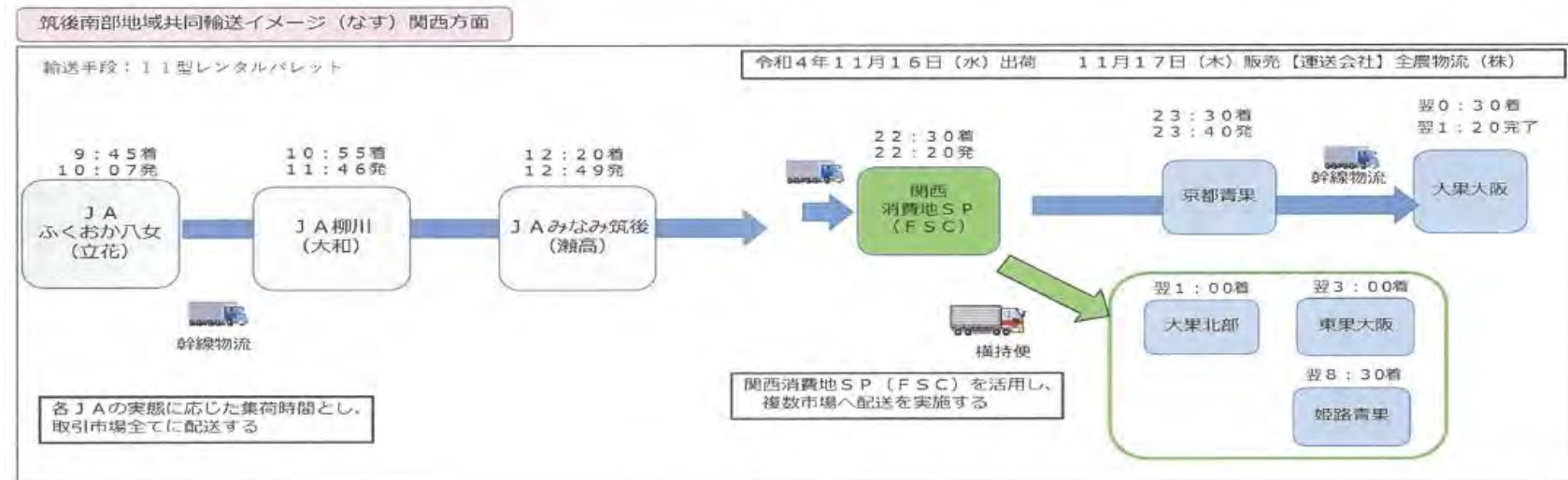
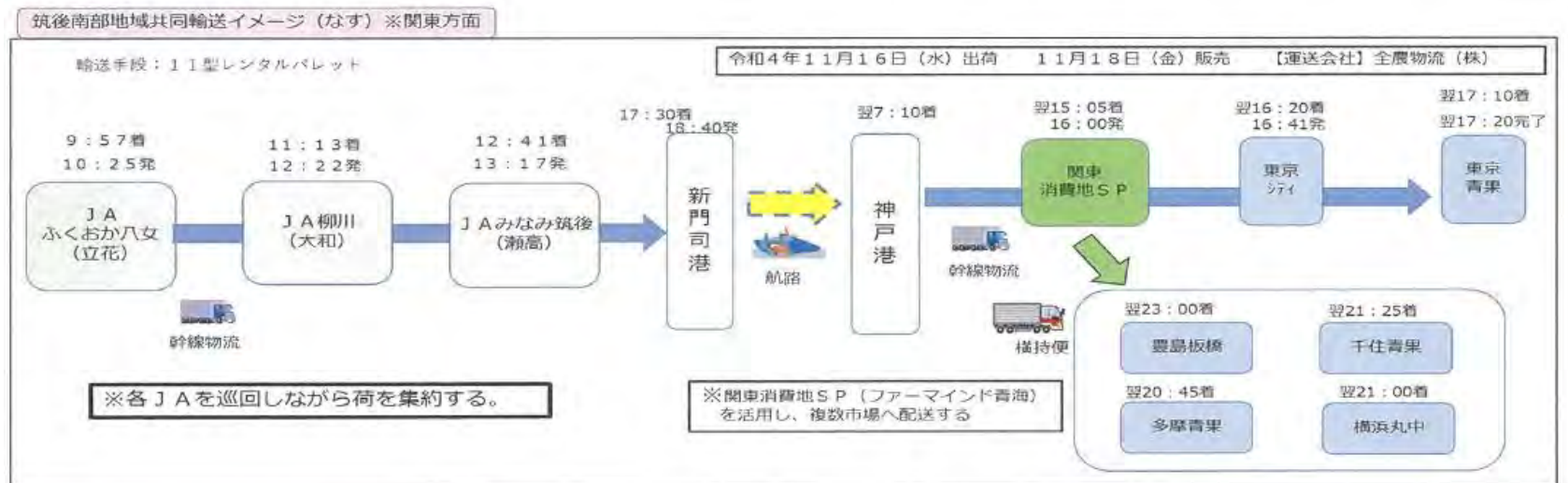
本輸送試験では、関東方面（トラック+フェリー）と関西方面（トラック）への輸送試験を実施した。



No	項目	内容
①	JAふくおか八女（積み込み）+ 配送トラック	- JAふくおか八女でパレットをトラックへ積み込み - JA柳川へ配送
②	JA柳川（積み込み）+ 配送トラック	- JA柳川でパレットをトラックへ積み込み - JAみなみ筑後へ配送
③	JAみなみ筑後（積み込み）+ 配送トラック	- JAみなみ筑後でパレットをトラックへ積み込み - 新門司港へ配送
④	神戸港へ配送 フェリー	神戸港へ配送
⑤	市場へ配送 トラック	- 神戸港から市場へ配送 - 市場で積み荷を荷卸し
⑥	市場へ配送 トラック	- JAみなみ筑後でパレットをトラックへ積み込み - 市場へ配送 - 市場で積み荷を荷卸し

2.2.2 実証実験 福岡県:JA全農ふくれん (3/7)

■ 参考：輸送ルートイメージ



2.2.2 実証実験 福岡県:JA全農ふくれん (4/7)

■ (3) 段ボールと積み付けパターン

・ ①段ボール (8kg箱)

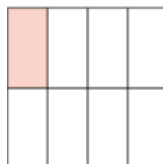
縦	横	高さ
546mm	271mm	299mm

・ ②パレットへの積み付け

パレットに適合した標準規格段ボールガイドブック (2022年全農本所 耕種資材部) より
5 段目まで棒済み、7, 8 段目は交差済み

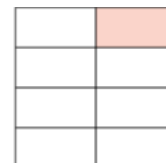
■ 5段目迄 棒済み

8 個、面占有率 : 97.83%



■ 6 段目、7 段目 交差済み

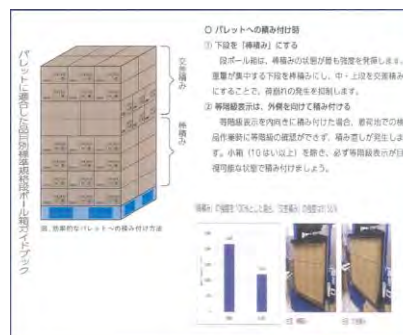
8 個、面占有率 : 97.83%



■ 8段目迄の荷姿



※積み付けの仕方についての参考資料 (2022年全農本所 耕種資材部)
パレットに適合した標準規格段ボールガイドブック



2.2.2 実証実験 福岡県:JA全農ふくれん (5/7)

■ (4) 実証の風景

・ 産地

JAふくおか八女



JA柳川



JAみなみ筑後



・ 市場



2.2.2 実証実験 福岡県:JA全農ふくれん (6/7)

■ (5) 作業時間等の検証

項目	内容
拘束時間	・ 関東の拘束時間は、1日目が10時間21分、2日目が8時間50分であり、トラック運転者の改善基準告示による1日の拘束時間13時間以内での対応を確保した。 ・ 関西の拘束時間に関しては、16時間21分であり、トラック運転者の改善基準告示による1日の拘束時間13時間を超過した。
運行時間	・ 関東の運行時間は、1日目が5時間17分、2日目が7時間17分であり、トラック運転者の改善基準告示による2日平均1日の運転時間9時間以内での対応を確保した。 ・ 関西の運行時間は、12時間13分であり、トラック運転者の改善基準告示による1日の運転時間9時間を超過した。
試験段ボール	既存段ボールと比較し、積載率は向上したが、高さが2,207mmとなり、高床のトラックであると、トラックの吹き出し口にあたる可能性が懸念される。

2.2.2 実証実験 福岡県:JA全農ふくれん (7/7)

■ (6) 総括

本実証の結果	- 出荷始めの荷両が少ない時期において、各 J A の出荷時間帯、出荷数量を調整したうえで、J A 域を越え消費地 S P 機能（横持ち配送）を活用し、複数市場への共同輸送体系の事例として一部成果を得た - 海上輸送および消費地 S P 機能の活用によって、2024年問題をクリアできる体制の整備について一定の成果を上げた - パレット輸送について - パレットを活用した輸送および荷崩れ防止のためラップ巻きにより、トラックの積込み作業効率化および幹線ルートによる効率的な輸送の体系に効果がある - 作業性（積込み、荷卸し）が向上した。 - 試験用の段ボールは、現行のものと比較して積載効率の向上が図られた
課題	- 今回の試験では、ドライバーの拘束時間内で完了できなかった - 一部箱の崩れが発生していたため、輸送方法についてさらなる検証が必要 - 試験用の段ボールで積載率は向上したが、低床トラックに限定される - その他 - 各 J A の出荷伝票が異なる。効率化を図るためには出荷伝票の統一も必要 - 段ボール変更による施設改修にかかわる投資 - パレットへの高積み付けには、作業負担と保管庫の改修などの課題がある - 市場検品では、総数検品による対応で待機時間の短縮化が必要である
今後に向けて	引き続き改善のため実証実験を実施する